

2021年6月16日発行

事務所 武石地域総合センター内
TEL:0268-85-3667
<https://www.s-takeshi.jp>
印刷 中澤印刷株式会社



御柱注連張り祭

4月25日(日)、来年4月に行われる子檀嶺神社御柱の注連張り祭が行われました。

御柱に予定されている木は、武石地区の中心から武石峠方面に10km余り上った上本入の焼山国有林広河原地籍にあり、東信森林管理事務所から払い下げを受けました。

しかし、御柱候補木が選定された後、今年の冬に選定木の300mほど下で大規模な土砂崩落があり、県道は通行止めとなってしまいました。このためこの日の出席者は、武石から三才山峠、美鈴湖を経由し武石峠を下るという大回りで神事の会場に到着しました。通常なら150人ほどが参列するとのことですがコロナ禍の折規模を縮小し、氏子総代、祭典係など人数を絞り40人余が参列しました。

式では北沢武氏子総代会長のあいさつの後、清住神官により一連の神事が執り行われ、玉串奉奠

は地元関係者のほか土屋市長、東信森林管理署長などが行いました。

御柱は県道から20mほど登ったところに立つ、胴回り2m10cmの縦ノ木です。今回の御柱は42尺(約13m)になるとのことです。



県道をふさいだ土砂崩れ



住みよい武石をつくる会 2021年度定期総会

住みよい武石をつくる会は、2021年度定期総会を4月24日午後、武石地域総合センターホールにおいて開催しました。総会には各団体等からの選出者委員が51名出席し、委任状は50名でした。コロナ禍で昨年は総会が開けず、書面議決という極めて変則な形で行いましたが、第2期から第3期への切り替え時でもあるため、今年は極力時間を短縮し、簡素化して開催いたしました。

児玉卓文会長からは、開会に際して、「2017年に会が発足し今年から3期目となる。地域の課題を住民自らが解決していくための組織として、課題の研究・対策を模索し行動していかなければならない。住民が武石で生きて良かったと実感できるよう運営していきたい」とあいさつがありました。

来賓の下村孝之武石地域自治センター長からは、「住みよい武石をつくる会は、エリアトーク、広報、地域の歴史探訪など他地区にない活動をしてきている。この春総合センターが完成したので、賑わいの創出のため活用してほしい。市では3月に後期まちづくり計画を樹立し、武石地域の目標を7つ掲げている。つくる会と協働で地域振興に当たりたい」と挨拶がありました。

議事では2020年度事業報告・決算の承認、2021年度事業計画・予算の議決、3期目の役員の改選などが行われました。

(1) 2020年度事業報告、決算

ア 2020年度事業

2020年度は活動が極めて制限され、当初計画していた項目のほとんど実施できませんでした。住民自治組織は、話し合いや相談といった地域コミュニティに活動の原点があり、人が集まれないということは会の活動にとって致命的なことでしたが、会では集まる人数や回数を極力制限し運営に当たってきました。また、来年度につなげる事業として熊沢峠登山の下見や、農産物栽培試行などを実施し、会の自主事業、他団体との協働・協力、調査や研修への参加など次のような事業が実施されました。

- ・健康ウォーキング（2回）
- ・たけしカルタ歴史さんぽみち
- ・道路環境クリーン大作戦（県道沿い草刈り）
- ・松くい虫防除事業の参加・協力
- ・先進地視察、研修会等への参加

その他行政（市）との意見交換会や年6回の広報発行、エリアトーク事業を続けてきました。

イ 一般会計決算概要

歳入総額	3,246,084円
歳出総額	2,621,103円
交付金返戻金	488,897円
差引	136,084円

コロナにより実施できなかった事業の交付金489千円を市に返還しました。136千円が翌年度への繰越金となります。

- ・歳入は主に、市からの交付金3,110千円、野菜販売収入64千円、繰越金72千円などです。
- ・歳出の主なものは、つくる会の委員・役員手当550千円、事務職員賃金1,022千円、消耗品129千円、インターネット接続費86千円、備品購入費214千円、広報印刷費436千円等です。

ウ 無線情報システム(エリアトーク) 特別会計決算概要

歳入4,259千円、歳出4,107千円となり、差引152千円は来年度繰越金となります。

- ・歳入は、加入者負担金3,894千円(1台・年4,000円)、手数料36千円、前年度繰越金330千円などです。

- ・歳出では、本年度は特に総合センター建設に伴う放送設備の移転経費が1,080千円となりました。毎年度の経常費用としては、アナウンサー賃金561千円、中継局等電話料273千円、設備機器保険料54千円、設備更新のための積立金2,100千円などとなっています。

(2) 2021年度事業計画・予算

ア 2021年度は、武石まちづくり計画に基づく次のような事業を計画していきます。

- ・熊沢峠活用事業への協力
- ・武石の縁が輪事業の運営支援
- ・地域農産物供給実証実験
- ・軽トラ市など地域産物の流通研究
- ・美ヶ原市民登山
- ・空き家対策の研究
- ・名所旧跡等の地域案内の充実
- ・交通弱者対策の研究

イ 一般会計予算は、歳入歳出とも前年度当初予算とほぼ同額の3,249千円で、歳入は市の交付金が3,095千円、歳出は前年度とほぼ同じ内容となっています。

ウ エリアトーク事業は、予算総額は歳入・歳出4,079千円。内訳は

- ・歳入は、加入者負担金が3,880千円、前年度繰越金が152千円。
- ・歳出は、人件費、通信費などの運営費が1,411千円、設備更新の積立金が2,500千円などとなっています。

(3) 役員の改選

児玉卓文会長、児玉裕二・廣川光子両副会長が再任

2年の任期満了に伴い役員が改選され、総会において、会長に児玉卓文、副会長に児玉裕二(会計兼務)・廣川光子(事務局兼任)が承認され3期目を担うことになりました。監事は池内俊郎、橋詰真由美の両氏が承認されました。また6つの部会の正副部会長は互選により右表のように選任されました。

部 会	部会長	副部会長
ふれあい交流	依田 享敏	清住 淳也
自然・生活環境	橋詰 明德	雨宮 孝
産業・経済	橋詰真由美	柳沢 裕子
健康・福祉・体育	小山ひとみ	金井 建
子育て・教育文化	小林 慎一	児玉久美子
広報	宮下 政登	北澤 茂

5月の風物詩

“武石公園ぼんぼりの灯り”

4月24日(土)武石公園に七ヶ友会の皆さんによりぼんぼりが設置されました。コロナ禍で開山祭は中止となりましたが、代掻きを終えた水田にきれいなシルエットを映しています。



2021年の春 花桃

3度目のコロナ緊急事態宣言が発令され、ステイホームが呼び掛けられています。国民はいささかコロナ疲れ。そんな中花桃の余里は屋外をゆったりと歩ける心身の「健康ウォーキング」の郷、昨年の数倍の人が訪れていました。花咲じいさんクラブ売店も今年は開店、山菜や手打ちそばが並んでいました。クラブの北沢賢二会長も公衆トイレの水の調整やアルコール消毒液の手配にと裏方仕事に大忙しの様子でした。



みんなの交流広場 つなぐ家ハートフルガーデンオープン

4月24日(土)武石風土つなぎ隊(隊長 柳沢裕子さん)が、つなぐ家ハートフルガーデンを開催しました。



毎年4月に開催していた“おさんぽギャラリー春”は昨年はコロナ禍で中止しましたが、今年は、人と人のつながりを大事にしたいと、柳沢そろば

ん教室横広場でプチイベントとしてハートフルガーデンを開きました。

「窯でピザを焼こう!」、古着・古本・食器・雑貨等の「もったいない市」、フードコーナー、占い、ワークショップ等人と人とのつながりを求めたイベントです。午前10時鐘の音を合図にオープン、早速ピザには注文の列ができ、密にならないようにオーダーを受けていました。

つなぎ隊では「この広場をみんなの交流の場として、いろいろなイベントを企画していきたい」とし、「もったいない市」は毎月開催しているつなぐ家の中で続けて行くことにしています。4月からは新企画として毎週木、金、土の午後1時からジャズ鑑賞コーナー「ジャズ+ (プラス)」を始めたとのこと。ゆったりとジャズに浸ってみませんか!

またつなぎ隊では、9月19日(日)には恒例の第5回仮装大賞の開催を予定しています。

深緑の古道を辿る ～熊沢峠トレッキング～

一段と濃さを増した緑の森に木漏れ日が降り注ぎ、谷川のせせらぎと野鳥のさえずりがこだまします。

明け方の雨も上がり、五月晴れの空が広がった5月29日(土)、武石・未来・つながるプロジェクトとつくる会ふれあい交流部会共催による「熊沢峠トレッキング」が、約40人の参加を得て行われました。

かつてこの峠を越えて霊泉寺温泉を目指した先人達に思いをはせながら、急な山道を一步一步進みます。谷の下から吹き上げる涼風に背中を押され、朱色に染まる山つつじに励まされ、息を切ら

し登りました。自然に包まれ、思い切り体を動かし、気持ちいい汗をかくことができました。



明治初期、舶来品が武石峠越えで松本へ

郷土史家 児玉卓文

加賀百万石の前田家は万延元年(1860)、参勤交代の道を北国街道から武石峠を越えて松本に入り、飛騨山脈を横断する道に切り替えようと、松本藩の協力を得て調査を行いました。実現をされずに明治維新をむかえました。

武石峠越えの通行差し止め後も庶民はへこたれませんが、明治5年(1872)2月、上本入村の橋詰孝太郎さんあてに筑摩県(9年に長野県に合併)の上金井村から高い荷物の継ぎ送り再開を双方で県に願い出ようとの相談が持ちかけられました。

話し合いの結果、4月、孝太郎さんは名主連名で長野県に、「上本入村は沢入深く生産力が低いので、祖父の代以来諸商品の売買や輸送を生業としてきたが、20年ほど前に浦野・上田宿の訴えにより差し止められた。この度筑摩県の上金井村より再開の相談があったので許可願いたい」旨の願書を出します。

そして、上金井村は4月、上本入村は5月、それぞれの県に、武石峠越えの輸送路が保福寺峠や諏訪通りより東京への近道であることを利点に、上本入村に継ぎ送り場を設け安価で安全な輸送を行うことを約し、かつ峠の山中には茶店が1軒しかないので、「ふな小場」に竈かまどを設けて、人馬の沓やワラジを用意し野菜煮などを提供して通行の便利を図りたいなどと記して、通行許可の願書を出しました。

その願書には運ぶ荷物が次のように記されています(寛政5年と品物が違います)。

●松本から

木綿類たびら・足袋裏あしづら・茶ちや・砂糖類さとう・タバコたばこ・玉藍たまあい(染料、上金井村でも藍を作っています)・阿波藍あわあい(染料)・竹細工たけこぎ・木曾産物きそ・傘かさ・椀わん・水油みずあぶら・油粕あぶらかす・酒粕さけかす

●松本へ

舶来品の諸品くわいひん・上野砥石かみ(群馬県南牧村産)・蚕種さんたね紙かみ(長瀬村は、蚕種さんたねの卵を産みつける紙の生産で日本一)・雑穀類ざつこく(季節により出入りあり)

上本入村には、明治6年3月付けの「武石峠道新道普請見積書」の下書きが残されています。長

野県に提出され工事が行われたか確認できませんが、『松本市史』(昭和8年刊)には、「明治10年代に金井村の今井九左衛門と武石村の橋詰幸(孝)太郎により新道の開削がなされた」と書かれています。江戸時代、松本藩用および一般民衆の江戸方面への交通路は保福寺峠から上田を経るものが主でしたが、明治になると三才山峠越えが最も利用されるようになりました。筑摩県は明治9年に峠道開削の測量を行い工事に着手しますが、筑摩県廃止で中止されました。明治12年民間の寄付金により再開されるも、県令(県知事)の交代でまた中止され、同14年に再び工事の復活が図られましたが、巨額の資金を要することから実現されませんでした。



橋詰孝太郎翁頌徳碑(築地原)

一方、明治政府は明治9年、東京と京都を結ぶ鉄道幹線として中山道鉄道を予定しました。(高崎から横川までは中山道に沿い、ここから入山峠を越えて岩村田へ、塩名田から千曲川の右岸を下り、田中と本海野の間で新潟に向かう枝線を分岐して、本線は千曲川を渡り、内村川沿いに鹿教湯から保福寺峠を越えて松本に出、木曾川に沿って中津川に至る)。明治19年に幹線は東海道に変更されて実現しませんでした。資材運搬鉄道として建設がすすめられた直江津・軽井沢間は明治21年に開通しました。(『武石村百年の歩み』には、明治29年に「武石峠越えで、松本へ鉄道敷設の件を村をあげて反対した」とありますが、この路線は不明です。) 次号に続く

武石を盛り上げる
人々グループ紹介

武石の人々 団体

NPO法人
武石子育て支援を考える会
武石児童館・学童保育所ピーターパン
・子育てひろば(子育て支援室)

ふれんず武石児童館 その②

学童保育所 ピーターパン



主任支援員
小林 美樹枝さん

支援員
立岩 はる代さん

「ただいま!」「おかえり!」「今日のおやつは?」「宿題終わったよ。」「学校どうだったの?」

家庭で交わされるような会話から学童保育所の生活がスタートです。「今日は天気がいいから武石川で遊ぼう!」どれだけ疲れていてもこの一言でササッと動き、あっという間に準備をして早速出発。川では卵から孵ったたくさんのおたまじゃくしにすっかりくぎ付けです。

仕事中の保護者に代わって放課後や学校が休みになる平日をともに過ごす学童保育所。開所当時は旧公民館の一室で5人から始まった「ピーターパン」も、20年を超える今年は過去最高の45人の利用登録があります。「皆で子ども達を育てよう」そんな思いが脈々と受け継がれ保護者会の協力を得ながら運営されてきました。

「さようなら、また明日!」、働く親と子の応援団として「今日も楽しく安全に過ごせてよかったね」と薄暗くなった庭を連れ立って帰途につく親子のうしろ姿を最後まで見送っていました。

◀武石川でマシュマロ作り

▼遊ぶ前に宿題を終えて



武石子育てひろば(子育て支援室)



支援員・子育てサポーター
金井 律子さん

主任
池田 渚さん

支援員
北原 知佳さん

全国に7,000カ所ある『地域子育て支援拠点』と呼ばれる施設の1つで、1カ月児健診の終わった0歳から未就園の子ども(おおむね3歳くらい)とその家族が利用できる場所です。

「早く行こうよ!」と元気に駐車場から走ってくる子や移動中に寝てしまい抱かれてくる子、歩くのが楽しくてなかなか辿り着かない子、ご機嫌で声を上げる子・・・、時には父親や祖父母に連れられ遊びに来る子もいます。

室内外には多くの幼児専用遊具があるので、それぞれ好きな場所でゆっくりと過ごします。また、利用者のおじいちゃんが手作りしてくれた遊具も人気です。毎月「わくわく広場」も開催され季節に合わせたイベントも盛りだくさんで親子での工作などを楽しみに参加する方も多いとのこと。

主任の池田さんは、「遊びに出掛ける場所も限られる昨今ですが、『うちの子はまだ小さいから・・・』と遠慮されている方にも成長の喜びを分かち合える時間を過ごしに気楽に足を運んでもらえれば嬉しいです」とおっしゃっていました。



▼みんなで楽しく元気に▲



《武石子育てひろば 開催日時》

- 毎週 月・火・金曜日
- 午前9時半～12時半まで
(祝日や児童館の休館日は閉館。振替として水曜開催時もあり。)